

信州の環境にやさしい農産物認証取得者事例調査票（穀類用）

認証取得者氏名	農事組合法人 安曇野北穂高農業生産組合 代表理事組合長 丸山 秀子	認証番号	50-00069	地事名	松本
地域（標高）	安曇野市（540 m）				
土壌（土性）	細粒褐色低地土				

項目	生産計画の内容		補足メモ																																		
1 栽培 状況	(1) 品目	米（品種：コシヒカリ）																																			
	(2) 面積	470.06 a	全面積で50%削減																																		
	(3) 栽培戸数又は労働力	1戸、9名																																			
	(4) 栽培期間	平成 28年4月～平成28年9月																																			
	(5) 収穫期間	平成28年9月10日頃～平成28年9月30日頃																																			
	(6) 収穫量	H27実績 29,280 kg（うち出荷量：29,280 kg）																																			
	(470.06a当り）	H28計画 28,000 kg（うち出荷量：28,000 kg）																																			
2 栽培 方法	(1) 土づくり	レンゲ草、稲わらのすき込み	緑肥利用（レンゲ）と稲わら還元																																		
	(2) 播種	平成 28年 4 月 16 日及び 4 月 25 日																																			
	(3) 育苗	平成 年 4 月 19 日～ 5 月 28 日																																			
	(4) 田植え	平成 年 5 月 12 日及び 5 月 28 日																																			
	(5) 施肥	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <p>窒素の50%減化学肥料の技術は、レンゲの活用（前年10月中旬に1.2kg/10a播種、5月の開花後原則全量をすきこむ）。標準播種量は3kg/10aであるが倒伏が心配なため1/2程度にしている。窒素として3kg/10a程度の肥効を期待している。</p> <p>○技術を導入する際の考え方 レンゲではリン酸、カリの成分が不足することからこれらの補給はペレット堆肥の「レオグリーン」で補給する、ペレット状で散布しやすいため追肥としての活用も可能。 また、レンゲ栽培で窒素成分の肥効が強く出る可能性があることから、稲体や根を強くするための珪酸分の補給と保肥力向上を目的に「シリカ21」を基肥で施用しておく。</p> <p>肥料の施用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素 うち化学由来</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元肥BB側条施肥2号</td> <td>28</td> <td>3.36</td> <td>4.48</td> <td>3.92</td> </tr> <tr> <td>追肥 NKC201</td> <td>10</td> <td>2.00</td> <td>0.00</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>レオグリーン特号</td> <td>100</td> <td>3.36</td> <td>3.31</td> <td>1.35</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>138</td> <td>8.72</td> <td>7.79</td> <td>6.27</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>化学由来窒素成分量 (kg/10a)</td> <td>5.36</td> </tr> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>低減率(%)</td> <td>51%</td> </tr> </table>			肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)			窒素 うち化学由来	リン酸	加里	元肥BB側条施肥2号	28	3.36	4.48	3.92	追肥 NKC201	10	2.00	0.00	1.00	レオグリーン特号	100	3.36	3.31	1.35	合計	138	8.72	7.79	6.27	化学由来窒素成分量 (kg/10a)	5.36	地区慣行施肥量 (kg/10a)	11	低減率(%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																																			
		窒素 うち化学由来	リン酸	加里																																	
元肥BB側条施肥2号	28	3.36	4.48	3.92																																	
追肥 NKC201	10	2.00	0.00	1.00																																	
レオグリーン特号	100	3.36	3.31	1.35																																	
合計	138	8.72	7.79	6.27																																	
化学由来窒素成分量 (kg/10a)	5.36																																				
地区慣行施肥量 (kg/10a)	11																																				
低減率(%)	51%																																				

2 栽培方法	(6) 病害虫防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術・導入する際の考え方</p> <p>○技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシといもち病防除をかねた箱施薬剤（ブイゲットフェルテラ）を使用。（1回の防除で済み、作業性が良い） ・害虫対策として、畦畔の草刈りをまめに行い、カメムシ等害虫の発生源を無くし、ほ場周辺の環境を整備する。 ・病気への対策は、施肥でシリカ21施用しイネの健全生育に可給態珪を補給し稲体の抵抗性を高めるようにしている。 																																																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺菌剤</td> <td>① ダコレート水和剤</td> <td>1000倍</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td>苗立枯病</td> </tr> <tr> <td>殺菌・殺虫剤</td> <td>② ブイゲットフェルテラ</td> <td>50g/1箱</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>いもち病、イネミズゾウムシ、イネトヨイムシ</td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>③ ボデーガードジャンボ</td> <td>400g/10a</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>ホタルイ、オモダカ、コナギ、ヒエ</td> </tr> <tr> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">※農薬名に番号を付記</td> <td>合計</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>12</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	殺菌剤	① ダコレート水和剤	1000倍	2	1	2			5	苗立枯病	殺菌・殺虫剤	② ブイゲットフェルテラ	50g/1箱	2	1	2				いもち病、イネミズゾウムシ、イネトヨイムシ	殺虫剤								3		除草剤	③ ボデーガードジャンボ	400g/10a	2	1	2			4	ホタルイ、オモダカ、コナギ、ヒエ	植調剤										※農薬名に番号を付記				合計	6	0	0	12	
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫																																																														
	殺菌剤	① ダコレート水和剤	1000倍	2	1	2			5	苗立枯病																																																														
	殺菌・殺虫剤	② ブイゲットフェルテラ	50g/1箱	2	1	2				いもち病、イネミズゾウムシ、イネトヨイムシ																																																														
殺虫剤								3																																																																
除草剤	③ ボデーガードジャンボ	400g/10a	2	1	2			4	ホタルイ、オモダカ、コナギ、ヒエ																																																															
植調剤																																																																								
※農薬名に番号を付記				合計	6	0	0	12																																																																
		<table border="1"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>削減率(%)</td> <td>50.0%</td> </tr> </table>	農薬の使用回数	6	地区慣行農薬使用回数	12	削減率(%)	50.0%																																																																
農薬の使用回数	6																																																																							
地区慣行農薬使用回数	12																																																																							
削減率(%)	50.0%																																																																							
	(7) 雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤は田植え1週間後の1回のみ散布し、残った雑草は人の手で抜き取る。 ・除草対策では、除草剤を1回（2成分）使用するがこれで充分効果がある、効果が上がる時期として、この地域では田植え後1週間が目安。 ・除草剤の効果を上げるために畦畔の整備、ほ場の整備（代掻きを丁寧にする）を行い水もちを良くするようにしている。 ・残った草については、早めに手で取り除く。 																																																																						
	(8) 水管理	水を干さずに稲刈り3日前まで水を入れ、胴割れを防止する																																																																						
	(9) 収量の状況	600kg/10a																																																																						
	(10) その他特記事項	レンゲの緑肥鋤き込みと、補完としリン酸、カリの成分の高いペレット堆肥の施用を行う。また地力、稲体の健全化のため珪酸成分の補給資材を施用している。																																																																						

3 販売状況	(1) 主な販売地域	全国（東京、神奈川、千葉、群馬、名古屋、地元）
	(2) 販売方法	消費者への直接販売（電話注文）
	(3) 県認証の活用方法	包装にシールを貼付
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	消費者の安心感につながっている。

始めた動機	戦前からレンゲ草を使用した栽培が行われていた。肥料になるだけでなく、景観も良い。有明山の麓にレンゲ草が広がる昔の景観に戻したいと思い、始めた（30年以上前から取り組んでいる）。
コメント	より安全で安心のお米を求めている消費者の皆様に、生産者として精一杯努力して栽培し、皆様にお届けしたいと思っています。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
耕起・施肥												元肥	元肥								穂肥																
育苗 ～ 収穫													播種			田植え	田植え									収穫											
病虫害防除										①			② ③																								
除草													④																								
土づくり 施肥	シリカチャージ、シリカ21を施用 稲わらの全量すき込み（700kg/10a） 秋にレンゲ種子を播いて春にすきこむ（1.2kg/10a 播種）																																				

ここがポイント！

- ・緑肥（レンゲ）により、化学肥料を削減
- ・栽培圃場が環境に恵まれた区域である（広い面積で取り組むことで、その広い区域全体の環境を整えられる）。
- ・人の手による草取りや畦畔の除草を行っている。
- ・電話注文の際に、注文を受け付けるだけでなく会話をする。
- ・注文者に対し、レンゲ米とはどういうものかを説明する資料を配布したり今年の栽培状況についてのお便りを出したりしている。

<栽培状況等の写真>

